

子どもとたのしむ絵本のリスト

4～6歳



～絵本を通して ころよいひとときを～

逗子市立図書館

どうぞ絵本を読んであげてください

民話やむかしばなし、ファンタジー、知識絵本や科学絵本、子どもが興味を示すジャンルはどんどん広がります。

さて、そろそろ文字に興味をもちはじめ、自分で拾い読みをするようになったら読み聞かせは卒業でしょうか。小学校に入学し、自分で本が読めるようになったとしても、大人に本を読んでもらうのは楽しい体験のひとつです。一緒に物語を楽しんだ思い出は、子ども心に深く刻み込まれ、生きる糧となるでしょう。

低学年のうち（子どもが望むなら、もっと大きくなって）、読み聞かせのひとつきを楽しみましょう。

よい絵本と出会うために

このブックリストでは、多くの子どもたちに長い間読み継がれてきた絵本を中心に紹介しています。とはいえ「おすすめの本」がすべてではありません。

「よい本」とは「その子にとってのよい本」です。ひとりひとりが「かけがえのない本」にめぐりあえるように、私たち大人は、子どもと本が出会う機会を、環境を、整えていかなければならないのだと思います。

ありこのおつかい

石井桃子／作 中川宗弥／絵
福音館書店



おつかいを頼まれたありのありこは、道草をしているうちにかまきりに飲み込まれてしまいました。ところが、そのかまきりをむくどりが飲み込み、むくどりをやまねこが飲み込み…。
いったいどうなるのでしょうか。

アンガスとあひる

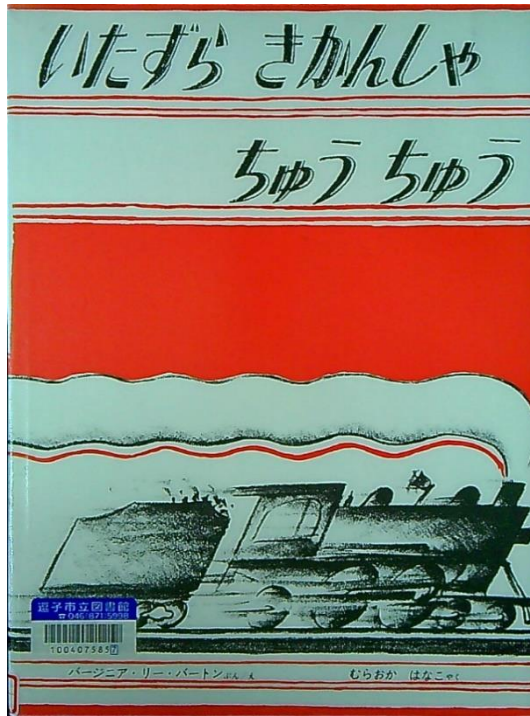
マージョリー・フラック／作絵 瀬田貞二／訳
福音館書店



こいぬのアンガスは好奇心いっぱい。一番気になるのは生垣の向こうから聞こえてくるやかましい音のこと。ある日、生垣の向こう側にでることができたアンガスでしたが…。アンガスの冒険に思わず自分を重ねてしまうことでしょう。

いたずらきかんしゃちゅうちゅう

バージニア・リー・バートン／文絵 むらおかはなこ／訳
福音館書店



機関車のちゅうちゅうは、毎日たくさんの人と
いっぱい荷物をのせて走っていました。ある
日ちゅうちゅうは、ひとりで走ったらみんなが
注目してくれるにちがいないと、勝手に走り出
しました。さあ、大冒険のはじまりです。

ウラパン・オコサーかずあそびー

谷川晃一／作

童心社



「ウラパン、オコサ。」なにかの呪文のような言葉ですね。ウラパンは1、オコサは2を表します。どんな数でも1と2を組み合わせればできるのです。不思議な数遊びの絵本です。

かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック／作 じんぐうてるお／訳
富山房



「かいじゅうおどりははじめよう！」かいじゅうならしの魔法を使ってかいじゅうたちの王様になったマックスは、かいじゅうたちと大騒ぎ。きっと子どもたちを冒険の旅へといざなうことでしょう。

かわ

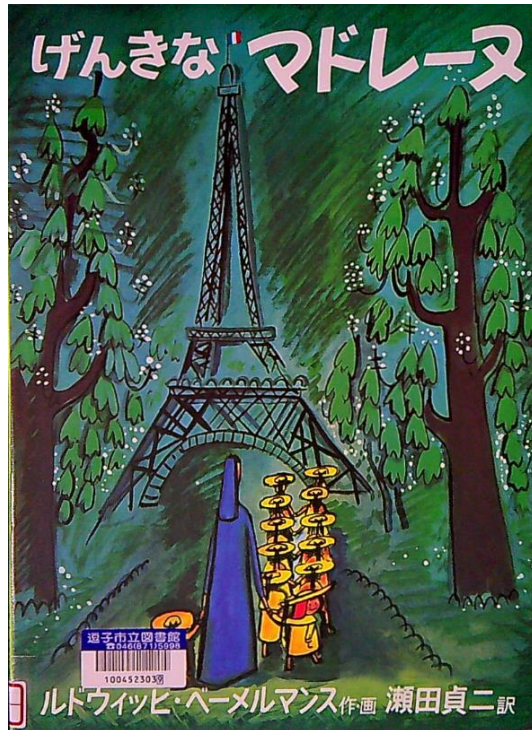
加古里子／作絵
福音館書店



高い山から始まった小さな水の流れが川となって流れていきます。川の水は浄水場や発電所に使われたり、田んぼや畑を潤すなど、いろいろ活用されていることがわかります。ページをめくって山から海まで川の旅を楽しみましょう。

げんきなマドレーヌ

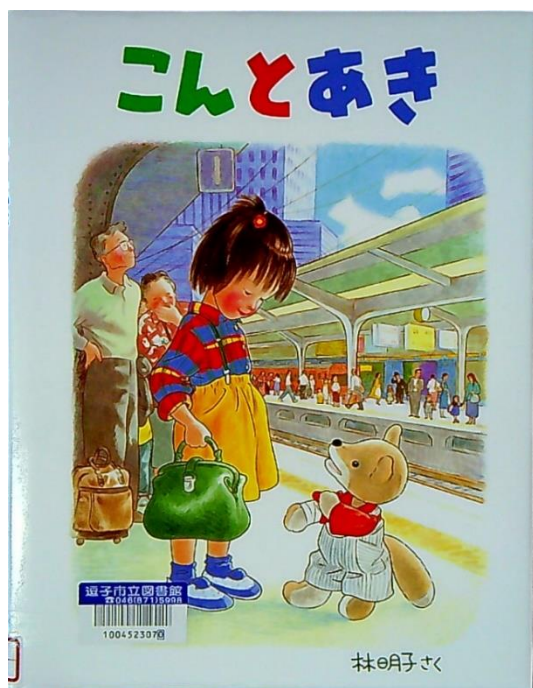
ルドウィッヒ・ベーメルマンズ／作画 瀬田貞二／訳
福音館書店



パリのお屋敷で十二人の女の子たちが一緒に暮らしていました。その中でも一番元気なマドレーヌは、ある夜、ベッドのなかでおいおい泣きだしました。どうしたのでしょうか。マドレーヌのおはなしシリーズの一作目です。

こんとあき

林明子／作
福音館書店



こんは、おばあちゃんが作ってくれたきつねのぬいぐるみです。あきが生まれたときからずっと一緒でしたが、腕がほころんでしまいました。おばあちゃんに直してもらおうと、こんとあきはおばあちゃんの家に向かいます。

サリーのこけももつみ

ロバート・マックロスキー／文絵 石井桃子／訳
岩波書店



サリーとおかあさんは山へこけももをつみにいきました。山の反対側ではくまの親子がこけももを食べにきていました。サリーは夢中でこけももを食べているうちに、まちがえておかあさんくまのあとについていってしまったのです！

しっぽのはたらき

川田健／文 藪内正幸／絵 今泉吉典／監修
福音館書店



しっぽって、なんのためにあるのでしょうか。
実はしっぽには大切な役割があるのです。写実
的な絵とやさしい解説でわかりやすく読むこと
ができます。

しょうぼうじどうしゃじふた

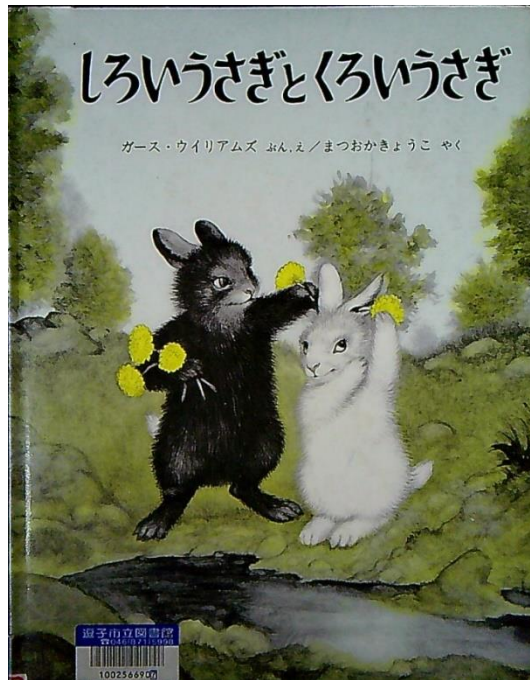
渡辺茂男／作 山本忠敬／絵
福音館書店



ある町の消防署に、はしご車と高圧車と救急車がいました。大きな火事があれば大活躍。でももう一台、古いジープの消防車のじふたがいました。山火事がおきて、ついにじふたにも出動命令が!

しろいうさぎとくろいうさぎ

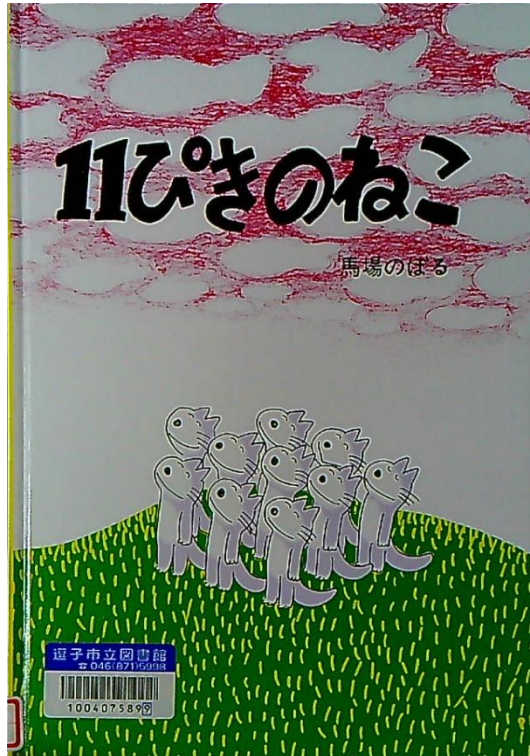
ガス・ウィリアムズ／文絵 まつおかきょうこ／訳
福音館書店



広い森の中で、小さな二匹のうさぎは毎日一緒に遊んでいました。ある日、くろいうさぎが悲しそうに考え事をしているのです。しろいうさぎには願い事をしていると答えたのですが、くろいうさぎのお願いってなんでしょう。

11ぴきのねこ

馬場のぼる／著
こぐま社



11ぴきのねこたちは、いつもおなかがぺこぺこ。じいさんねこから大きな魚がいる湖の話を聞き、捕まえておなかいっぱい食べるぞ! と出かけましたが…。とらねこ大将と10ぴきののらねこたちの冒険物語の一作目です。

そらいろのたね

中川李枝子／作 大村百合子／絵
福音館書店



ゆうじときつねはお互いの宝物の模型飛行機と
そらいろのたねを交換することにしました。ゆ
うじがたねを庭に埋めて水をまくと、小さな空
色の家がでてきました。さらに水をまくと、そ
らいろの家はどんどん大きくなって…。

でこちゃん

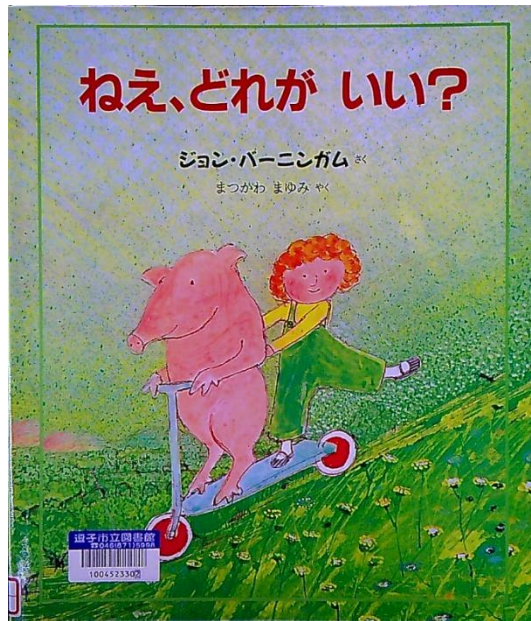
つちだのぶこ／作絵
PHP研究所



お母さんに髪の毛を切ってもらったでこちゃん。
前髪を切りすぎて、でこちゃんと笑われてしま
いました。恥ずかしくて幼稚園に行きたくない
でこちゃんに、お姉ちゃんがおまじないをして
くれました。

ねえ、どれがいい？ 新版

ジョン・バーニングラム／作 まつかわまゆみ／訳
評論社



「ねえ、どれがいい？」と男の子が聞いてくる質問は、どれもこれもへんてこなものばかり。どれもあまり選びたくないものばかりだけど…。いつのまにか真剣に選んでしまう魅力たっぷりの絵本です。

はじめてのおつかい

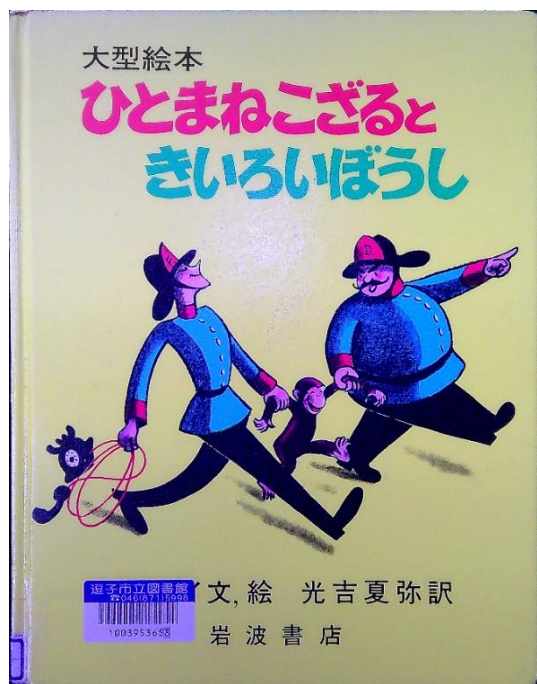
筒井頼子／作 林明子／絵
福音館書店



ある日、みいちゃんはおかあさんにおつかいをたのまれました。あかちゃんのための牛乳です。おかあさんと二つの約束をして出かけたみいちゃんですが、転んでお金を落としてしまったり、ドキドキの連続です。

ひとまねこざるときいろいろぼうし

H.A.レイ／文絵 光吉夏弥／訳
岩波書店



アフリカで暮らしていたこざるのジョージは知りたがり屋で人まねが大好き。黄色い帽子のおじさんと一緒に船に乗って大きな町にやってきました。ひとまねこざるシリーズの一作目です。

めっきらもっきらどおんどん

長谷川摂子／作 ふりやなな／画
福音館書店



かantaは「めっきらもっきらどおんどん」と歌って不思議な世界へすいこまれてしまいました。そこで出会ったへんてこな三人組と時間を忘れて遊びます。気がつくともう夜。心細くなったかantaが「おかあさん」とさけぶと…。

ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ／文絵 とくながやすもと／訳
福音館書店



ラチは弱虫な男の子。そんなラチの前にライオンが現れました。ライオンがそばにいと勇氣を出すことができたラチ。ところがライオンは、手紙を残していなくなってしまったのです。ラチは強くなることができるでしょうか。

絵本のガイドブック

- 『ベーシック絵本入門』 JG 019 ハ
生田美秋／編著 石井光恵／編著 藤本朝巳／編著
ミネルヴァ書房 2013
- 『絵本の記憶、子どもの気持ち』 JG 019 ヤ
山口雅子／著 福音館書店 2014
- 『よみきかせのきほん－保育園・幼稚園・学校での実践
ガイドー』 JG 019 ヨ
東京子ども図書館／編集 東京子ども図書館 2018
- 『今、この本を子どもの手に』 JG 028 イ
東京子ども図書館／編 東京子ども図書館 2015
- 『絵本の庭へ』 JG 028 ト
東京子ども図書館／編 東京子ども図書館 2012
- 『私たちの選んだ子どもの本』改訂新版 JG 028 ト
東京子ども図書館／編集 東京子ども図書館 2012
- 『絵本から学ぶ子どもの文化』 JG 371.4 ア
浅木尚実／編著 同文書院 2015

子どもとたのしむ絵本のリスト
4～6歳

2006年4月 初版
2011年10月 改訂新版
2021年4月 改題改訂新版

逗子市立図書館

逗子市逗子4-2-10

電話 046(871)5998

<https://www.library.city.zushi.lg.jp>